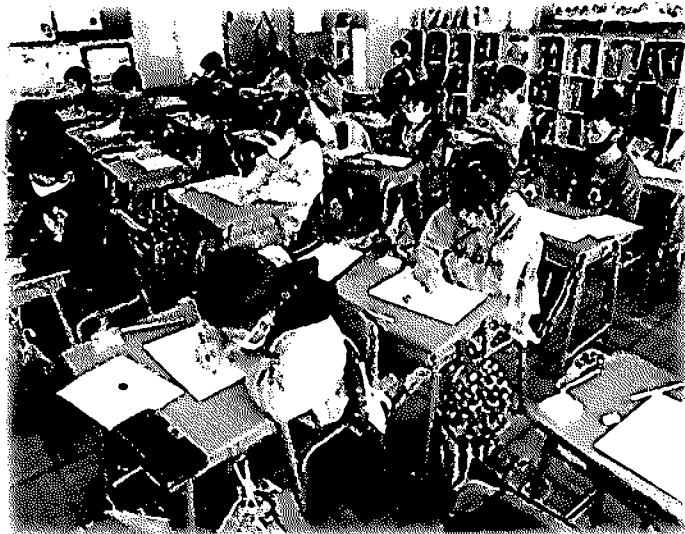


令和3年度 印旛地区教育研究集会 国語科書写分科会

研究主題

生きる力を育む書写教育のあり方

—基礎基本の習得と日常の書写力の向上をめざして—



令和3年8月25日

第三部会 白井市立池の上小学校 鈴木千恵子
白井市立七次台小学校 保延 舞子

I 研究主題

生きる力を育む書写教育のありかた —基礎基本の習得と日常の書写力の向上をめざして—

II 主題設定の理由

学習指導要領では、国語科の目標を次のように示している。

「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指す。」

今回の改訂で「書写」は、「知識及び技能」の「(3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。」に位置づけられている。書写が「知識及び技能」に位置づけられたことで、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」といった言語活動を支える基礎的役割が、より明確になったといえる。そのねらいは、国語の基礎能力として、文字を正確に理解し表現する能力を養うとともに、文字に対する関心を深め、文字感覚を養い、文字を尊重する態度を育てることである。書写指導のねらいは、各教科等の学習活動や日常生活に生かすことのできる書写の能力を育成することである。

具体的には、小学校では文字を書く基礎になる姿勢、筆記用具の持ち方、点画や一文字の書き方、筆順などの事項から、文字の集まりの書き方へと指導していく。それを基礎として、筆記用具を選択し効果的に使用することで、目的に応じた書き方を判断して書くことをねらっている。そして、新たに加わったのは、低学年における「点画の書き方や文字の形に注意しながら」書くことの指導について、硬筆書写の能力を高めるための指導を工夫することである。適切に運筆する能力の向上につながるよう、水書用筆等を使用した運筆指導を取り入れることが望ましいと考える。

さらに、中学書写では、楷書や行書の特徴をふまえ、目的や必要に応じて書体を選択し効果的に文字を書くことができるようになることを目指している。

「生きる力」の育成のためにも「伝統と文化の尊重」が強調されていることは周知の通りである。日本の伝統文化の原点である「文字」を正しく書く書写の基礎基本を身に付けることは言うまでもない。現代社会の状況を考えた時、文字を書く機会は非常に減ってきてはいる。しかし、書写の授業のみならず各教科が連携を取り合って、文字を書くことを楽しめるような環境を作っていくのも学校教育の大切な役割だと考える。さらに自分の課題をしっかりとらえて主体的に学び、他者との話し合い活動を取り入れ、自己評価・相互評価をして振り返り、新たな課題を見いだせるような活動が必要である。そこから児童生徒の文字に対する関心を深め、文字感覚を養い、文字に対する意識の向上を図っていくことは、書写力の日常化につながり、さらに日本の文字文化を継承していく上でも重要であると考えられる。

そこで、これらから、基礎基本の習得と日常の書写力の向上が「生きる力」を育むことにつながると考え、本主題を設定した。

(1) 生きる力を育むとは

書写学習において「生きる力」とは、基礎基本を習得し、文字を大切にす活動の中で、自ら課題をもち、自ら考え解決しようとする態度を身に付けることであり、その過程で他者と関わり、学び合い、認め合い、高め合うことであると考え。そのためには、児童生徒が主体的に考え、意欲的に課題を解決していけるよう支援することが大切である。書写学習における「見方・考え方」は、他の学習や日常生活等で見つけた課題解決にも生かしていくことができると考える。

(2) 基礎基本の習得とは

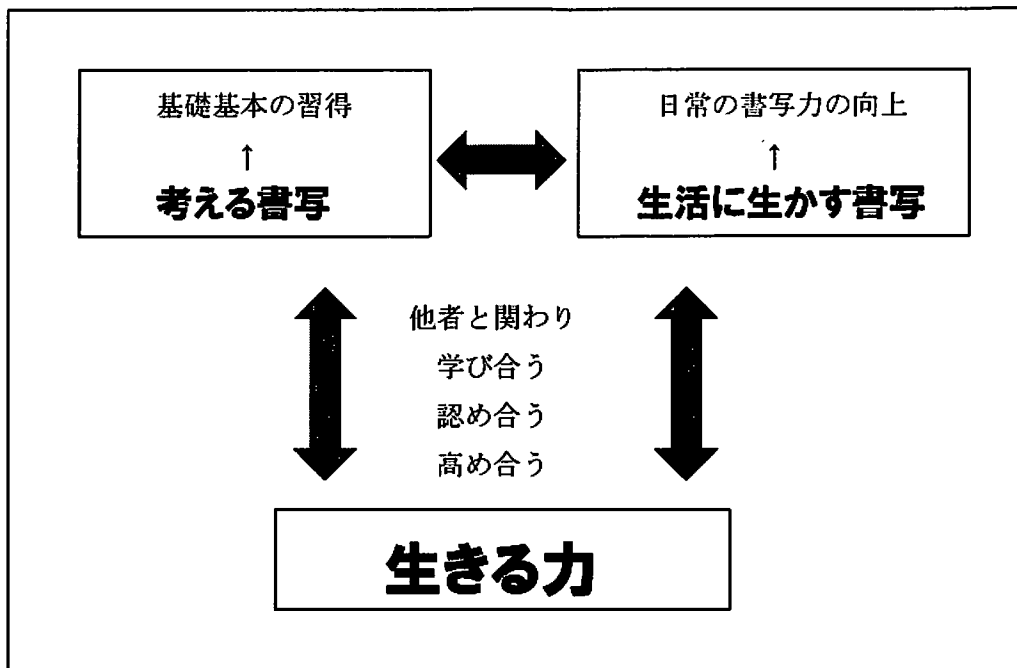
学習指導要領において、2内容〔知識及び技能〕(3)我が国の言語文化に関する事項に「書写に関する次の事項を理解し使うこと。」として次のように示されている。

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	中学校第1学年
(ア) 姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。 (イ) 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 (ウ) 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を正しく書くこと。	(ア) 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。 (イ) 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。 (ウ) 毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。	(ア) 用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。 (イ) 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。 (ウ) 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。	(ア) 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。 (イ) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。

具体的な学習場面においては、文字を書く時の原理・原則を「基準」として理解し、自らの課題をつかみ、解決することであると考え。

(3) 日常の書写力の向上とは

書写学習で身に付けた資質・能力を、各教科等の学習や生活の様々な場面で積極的かつ効果的に生かす態度を育成することである。日常生活、さらには社会生活の中で文字を書く、文字で表現する喜びを実感できるようにしたいと考える。



Ⅲ 研究仮説

<仮説1> **考える書写**

学習の進め方や教材教具等の手立てを工夫すれば、主体的に考え、基礎基本を習得することができるであろう。

児童自らが「どのようにしたら文字を正しく整えて書くことができるか」ということを考え、主体的に取り組むことが、書写学習を通して「生きる力」を育むことにつながると思う。そこで、まず、課題について考える視点が明確になるような教材教具の提示、発問の仕方を工夫する必要がある。また、児童が自分の文字の課題をつかみ、自分に適しためあてをもって課題解決に取り組む姿勢も大切である。そのため、児童自らが学習の進め方を理解し、見通しをもって課題に取り組めるようにしたい。

- 手立て
- ・児童が「気づき」「考える」場を設定する。
 - ・基準を明確にする。
 - ・教材教具、練習用紙を工夫する。
 - ・自分の課題に沿った自己評価ができるような学習カードや、友達の良いところを認め、励まし合う相互評価の仕方を工夫する。

<仮説2> 生活に生かす書写

学習した内容と同じ要素をもつ文字を探して書く活動や、相手や場面を意識しながら文字を書く活動を設定すれば、日常の書写力を高めることができるであろう。

書写学習の終末に、学習した内容と同じ要素をもつ文字を探す活動を取り入れる。学習した書き方が他の文字でも活用できることに気づき、日常の文字を書く活動や新出漢字の学習等に生かすことができると考える。また、書写学習で身に付けた力を生かして、他教科や生活の中で表現する場を設けることで、文字を書くことの楽しさや達成感を味わい、書写学習が生活の中で役立っていることを実感することができる。その際は、相手意識・目的意識をもって丁寧に組み立てることが大切である。表現の過程や成果を他者から認められれば、さらに書写学習への意欲も向上するであろう。

- 手立て
- ・発問やワークシートを工夫し、他の文字にも目を向けさせる。
 - ・他教科や領域において、相手意識、目的意識をもって文字を書く活動を設定する。
 - ・様々な筆記用具や用紙の活用、掲示の仕方を工夫する。

IV 研究内容

(1) 研究方法

- 低学年において、水書用筆を活用した授業実践をする。
 - ・授業の導入時に「しよしゃのたいそう」を行い、基本的な点画の言い方や書き方についての理解を深める。
 - ・教材教具に、考えたくなるような「しかけ」をつくる。
 - ・水書用筆と鉛筆を交互に用いて練習することにより、児童の運筆能力を高める。
 - ・自己評価や相互評価の場を取り入れる。
- 他教科や生活の中で相手意識・目的意識をもって文字を書く活動を設定する。

(2) 授業実践

- 実践1 第1学年 かん字の学しゅう ①かくのおわりのかきかた
- 実践2 第2学年 かたかなの学しゅう 画の方こう
- 実践3 第2学年 かん字の学しゅう ②画の方こう

実践1 第1学年

1 単元名 かん字の学しゅう ①かくのおわりのかきかた

2 単元について

本単元は、学習指導要領「知識及び技能」(3)我が国の言語文化に関する事項ウ(ア)「姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。」(イ)「点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。」を受けて設定した。

児童はこれまでに、姿勢や鉛筆の持ち方、平仮名・片仮名の基本点画、筆順や外形について学習してきた。本単元では、いよいよ漢字の学習が始まる。この学習を進めることにより、児童は日本語の活用に必要な全ての文字種を学ぶことになる。

本単元では、漢字の終筆の書き方である「とめ」「はね」「はらい」について学習する。点画の始筆と終筆の書き方に注意することが文字を丁寧に書くことにつながる。漢字の終筆も平仮名や片仮名と同じであることに気付かせ、漢字を正しく整えて書くことができるようにしたい。

学習を進めるにあたっては、まず、漢字の終筆に着目させ、書き方の違いを確認した上で「とめ」「はね」「はらい」の用語をしっかりとおさえる。平仮名や片仮名の終筆の書き方を想起させ、「びた」「びょん」「すうっ」のように音声化したり動作化したりして、体感的にイメージできるようにしたい。また、水書用筆を使用して、「はね」や「はらい」で筆圧を軽くするという感覚をつかませたい。

鉛筆で書いた際に、「はね」や「はらい」を書いたつもりでも「とめ」に見えてしまうのは、筆圧に課題があるためである。水書用筆と鉛筆とを交互に使うようにし、水書用筆で得た筆圧の変化の感覚を鉛筆で再現できるようにさせたい。

3 児童の実態と考察(男子17名 女子14名 合計31名)

(1) 意識面

本学級の児童は、書写に対する意欲が高く、「書写の勉強は好きですか」という問いに、31名中28名が「はい」と答えている。また、この問いに「いいえ」と答えた児童3名も含めて、全員が「きれいな字が書けるようになりたい」と答えている。「書写の学習で難しいと思うことはありますか」という問いについては、「いいえ」と答えた児童の方が多く、23名であった。主な理由は「簡単だから」である。一方、「はい」と答えた児童は、「なぞるのが難しい」「フェルトペンでうまく書けない」等の理由を挙げている。体を動かしたり水書用筆を使ったりと、様々な感覚や用具を使って書くことで、書写学習の知識や技能を高めていきたいと考える。

(2) 技能面

漢字の終筆の書き方について調査した。

調査項目	正しく書けた	誤りの例
三・日「とめ」	20名(約65%)	きちんと止まっていない 払っている
小 「はね」	27名(約87%)	はねずに止めている
人・木「左はらい」	12名(約39%)	払わずに止めている

人・木「右はらい」	9名（約29%）	止めている 止めずに払っている
-----------	----------	-----------------

「とめ」をきちんと止めて書くことが意識できていない児童が3分の1程度いることが分かった。また、「はらい」を筆圧を弱めずに左や右に向けて書く児童が多く、「右はらい」については、一度止めてから払うという書き方ができていないことが分かった。そこで、水書用筆を使用して、筆圧の変化による線の違いが理解できるようにし、終筆を正しく書くことができるようにしていきたい。

4 単元の目標

○漢字の終筆（「とめ」「はね」「はらい」）の書き方を理解することができる。また、終筆を正しく書くことができる。 【知識及び技能】

○終筆の書き方の違いを考慮することができる。 【思考力、判断力、表現力等】

○終筆の違いに気をつけて書こうとする。また、他の文字でも終筆に気をつけて書こうとする。

【学びに向かう力、人間性等】

5 指導と評価の計画 3時間扱い（本時2/3）

時	主な学習活動	評価
1	○『一』『小』『人』の終筆（「とめ」「はね」「はらい」）の書き方の違いを理解する。 ○水書用筆を用いて、終筆の書き方を練習する。	○終筆の書き方の違いについて考えている。【思考・判断・表現】 ○終筆の書き方を理解している。【知識・技能】
2（本時）	○『上』『月』『木』の終筆（「とめ」「はね」「はらい」）の書き方の違いを理解する。 ○水書用筆と鉛筆を交互に使用し、各自の課題に合わせて練習する。	○終筆の書き方を理解して、正しく書いている。【知識・技能】 ○終筆の違いに気をつけて書こうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
3	○身のまわりの漢字について、終筆が「とめ」「はね」「はらい」になっているものを探して書く。	○身のまわりの漢字に目を向け、終筆の違いに気をつけて書こうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

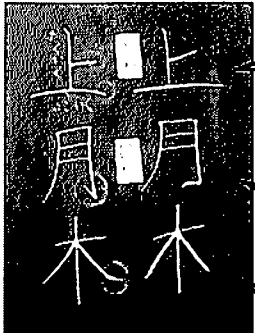
6 本時の指導

（1）目標

○漢字の終筆（「とめ」「はね」「はらい」）の書き方を理解して、正しく書くことができる。 【知識及び技能】

○終筆の違いに気をつけて書こうとする。 【学びに向かう力、人間性等】

(2) 展開 (2/3)

時配	学習活動と内容	・指導支援 ○評価 *特別な配慮	資料
2	<p>【見出す】</p> <p>1 ウォーミングアップをする。 ・「しょしゃのたいそう」をする。</p>	<p>・体全体を使って、楽しみながら基本点画の書き方を理解できるようにする。</p>	<p>パワーポイント</p>
3	<p>2 本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>「とめ」「はね」「はらい」に気をつけて書こう。</p> </div>		
3	<p>【自分で取り組む】</p> <p>3 『上』『月』『木』を試書する。</p>	<p>・空書きをして書き順を確認する。</p>	<p>ワークシート</p>
7	<p>4 終筆の書き方を確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「とめ」は「びた」ととまる。 「はね」は「びょん」とはねる。 「はらい」は「すうっ」とはらう。</p> </div> <p>・空書きをして確認する。</p>	<p>・終筆を間違った書き方で『上』『月』『木』を板書し、間違った部分について話し合いながら基準を明確にする。</p>	
5	<p>5 各自のめあてを決める。 ・試書に赤鉛筆で印をつける。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> <p>○をつけておこう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> <p>赤で直そう。</p> </div> </div>	<div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>止めていないよ。 三画目は止めだよ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>二画目がちゃんと はねていないよ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>はらいが書けていない。 右も左もどっちもだめ。</p> </div>	
10	<p>6 練習する。 ・水書用筆と鉛筆を交互に使う練習する。</p>	<p>○終筆の違いに気をつけて書こうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p>	<p>水書セット</p>
5	<p>【広げ深める】</p> <p>7 終筆の書き方ができるようになったか確かめ合う。</p>	<p>・隣の人と書いているところを見合い、よくできたところを伝え合うよう助言する。 *言葉でうまく伝えられない場合は、手でお手元をつくるなどのジェスチャーでもよいことを伝える。</p>	

5	【まとめあげる】		
	8	まとめ書きをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・各自のめあてが達成できたかどうか自己評価させる。 ○漢字の終筆の書き方を理解して、正しく書いている。【知識・技能】
5	9	関連文字を探して書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに習った漢字から、「とめ」「はね」「はらい」を見つけて書くことで、日常化を図る。

(3) 板書

「はらい」のあるかん字

「はね」のあるかん字

「とめ」のあるかん字

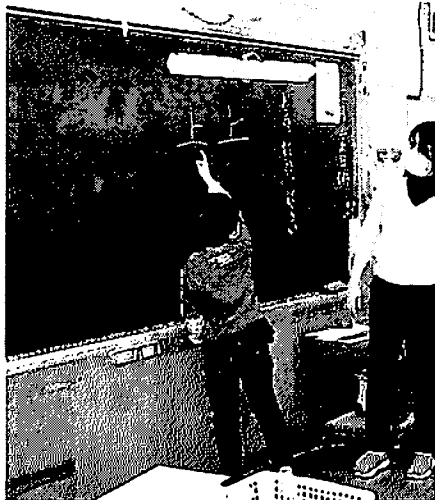
「とめ」「はね」「はらい」にきをつけてかこう。

(4) 資料

「しょしゃのたいそう」でウォーミングアップ。 「よこ画、止め。とん、すうっ、びたっ。」

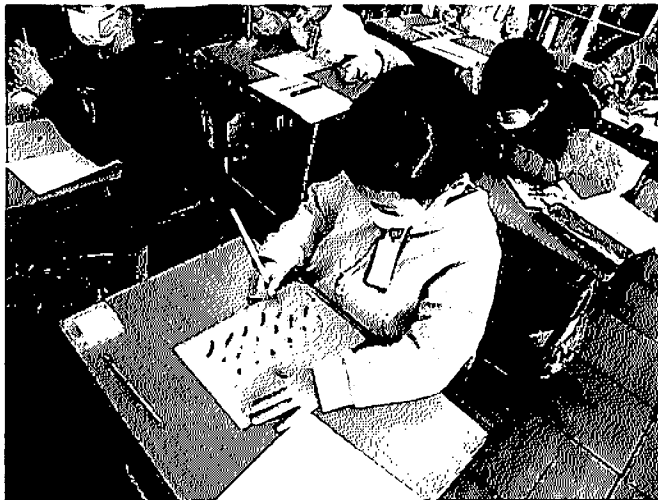
基準について話し合う。

「三面目の終わりは止めます。」

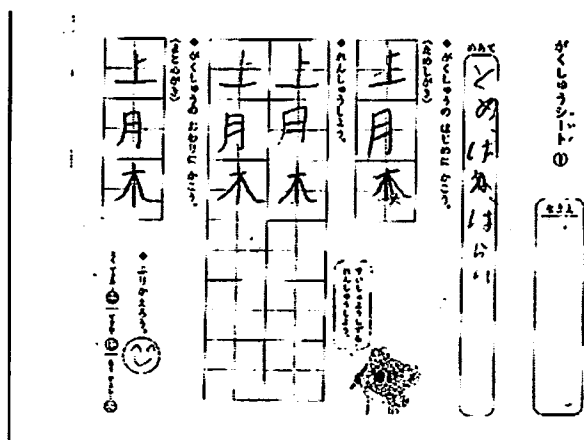


水書用筆で右はらいの練習。

「とっ、すうっ、ぴたっ、すうっ。」

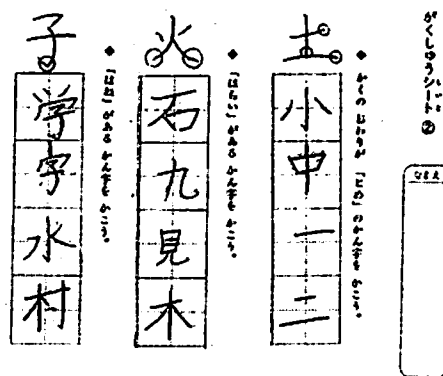
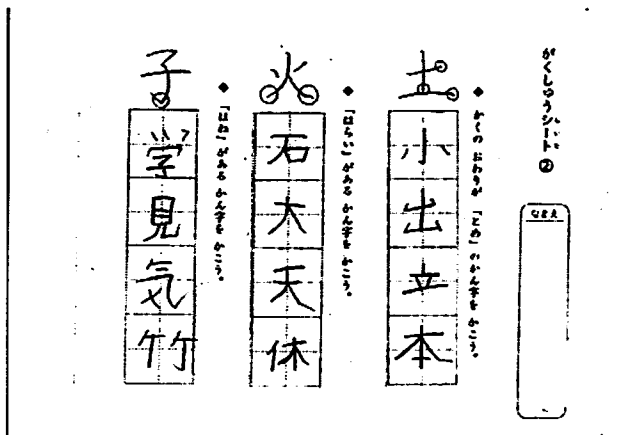


試書に赤鉛筆で書き込む。「木の右はらいを直そう！」



事後調査	正しく書けた
上「とめ」	27名 (約87%)
月「はね」	31名 (100%)
木「左はらい」	24名 (約77%)
木「右はらい」	20名 (約65%)

「とめ」「はね」「はらい」のある漢字を見つけて書く。



実践2 第2学年

1 単元名 かたかなの学しゅう 画の方こう

2 単元について

本単元は、学習指導要領「知識及び技能」(3)我が国の言語文化に関する事項ウ(ア)「姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。」(イ)「点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。」を受けて設定した。

本単元では、一年生で学習した送筆(「おれ」「まがり」)や終筆(「とめ」「はね」「はらい」)の基礎学習や、片仮名の外形、書き誤りやすい片仮名を学習したことを踏まえて、さらに画の方向に気をつけたい片仮名について、正しく整えて書くことをねらいとしている。片仮名は、この学年までに全ての文字を書き、使えるようにしなければならず、漢字学習の基礎ともなるので、丁寧に扱うよう心がけたい。また、前学年で学習した内容と結びつけ、新たな学習に対する負担感・抵抗感を生まないようにしたい。

学習を進めるにあたっては、まず、画の方向を誤りやすい「マ」と「ア」、「ワ」と「ク」を比較させ、児童の言葉で違いを説明できるようにする。次に、「ソ」「ツ」「ン」「シ」の「はらい」の方向の違いを理解し、正しく書くことができるようにする。「ソ」「ツ」は左下へ払う、「ン」「シ」は右上へ払うことを矢印や外形の図版で示し、画の方向の違いを視覚的に理解できるようにしたい。さらに、促音の書く位置、長音、濁音や半濁音、音引きの書き方についても振り返り、確実な定着を図りたい。

書写の学習においては、毎回、「しょしゃのたいそう」やよい姿勢・持ち方の確認を行うとともに、水書用筆を使用した練習を取り入れて、児童の運筆能力を高めていく。鉛筆で書いた際に、「はね」や「はらい」を書いたつもりでも「とめ」に見えてしまうのは、筆圧に課題があるためである。水書用筆と鉛筆とを交互に使うようにし、水書用筆で得た筆圧の変化の感覚を鉛筆で再現できるようにさせた。

3 児童の実態と考察(男子17名 女子14名 合計31名)

(1) 意識面

本学級の児童は、「書写の勉強は好きですか」という問いに、31名中27名が「はい」と答えている。その理由の多くは「字がうまくなるから」「楽しいから」であり、2名は「筆で書けるから」であった。水書用筆を用いた学習方法が浸透してきていると感じる。また、「きれいな字が書けるようになりたい」と答えた児童はほぼ全員の30名であった。「きれいな字は読みやすいから」「ほめられるから」の他、「将来のために」と考えている児童が多くいた。「書写の学習で難しいと思うことはありますか」という問いについては、「いいえ」と答えた児童の方が多く、24名であった。一方、「はい」と答えた7名の児童は、「書き順が難しい」「ますからはみ出てしまう」「筆の力の入れ方や太さが難しい」等の理由を挙げており、書写学習に意欲的に取り組んでいることが分かった。

(2) 技能面

片仮名の画の方向の書き方について調査した。

調査項目	正しく書けた	誤りの例
マ 二画目	29名 (約94%)	△2名 (止まっていない)
ア 二画目	16名 (約52%)	△13名 (払っていない) × 2名 (方向)
ワ 一画目	28名 (約90%)	△3名 (止まっていない)
ク 一画目	19名 (約61%)	△12名 (払っていない)
ソ 「はらい」	25名 (約81%)	△6名 (払っていない)
ツ 「はらい」	20名 (約65%)	△8名 (払っていない) × 3名 (方向)
ン 「はらい」	23名 (約74%)	△5名 (払っていない) × 3名 (方向)
シ 「はらい」	23名 (約74%)	△5名 (払っていない) × 3名 (方向)

片仮名の画の方向については、ほとんどの児童が理解していた。しかし、「とめ」をきちんと止めて書くことや、「はらい」を筆圧を弱めて書くことができなかつたりするための誤りが多いことが分かった。そこで、毛筆で書いた分解文字を正しく組み立てる活動を通して、「はらい」の正しい書き方を視覚的に理解できるようにしたい。また、水書用筆を使用して、筆圧の変化による線の違いを体感的に捉えさせ、「はらい」を正しく書くことができるようにしていきたい。

4 単元の目標

- 「はらい」の方向について理解し、正しく書くことができる。 【知識及び技能】
- 「はらい」の方向の違いについて考えることができる。 【思考力・判断力・表現力等】
- 他の文字でも、片仮名の字形の違いに気をつけて書こうとする。 【学びに向かう力・人間性等】

5 指導と評価の計画 3時間扱い (本時2/3)

時	主な学習活動	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ○片仮名(「マ」「ア」「ワ」「ク」)の画の方向の違いを理解する。 ○水書用筆を用いて、点画の書き方を練習する。 ○片仮名の画の方向の違いに気をつけて、正しく書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○片仮名の画の方向の違いを理解して書いている。 【知識・技能】
2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○片仮名(「ソ」「ツ」「ン」「シ」)の「はらい」の方向の違いを理解する。 ○水書用筆を用いて、「はらい」の書き方を練習する。 ○片仮名の「はらい」の方向の違いに気をつけて、正しく書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○片仮名の「はらい」の方向の違いを理解して書いている。 【知識・技能】 ○「はらい」の方向の違いについて考えている。 【思考・判断・表現】

3	○似ている片仮名を比べ、違いに気をつけて文字を書く。	○似ている片仮名の画の接し方の違いを理解して書いている。【知識・技能】 ○他の文字でも、片仮名の「はらい」の方向に気をつけて書こうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
---	----------------------------	---

6 本時の指導

(1) 目標

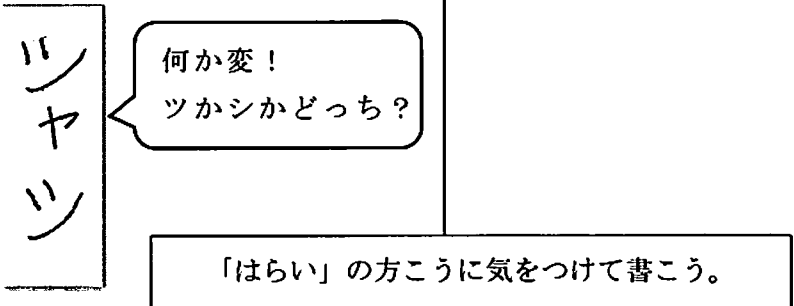
○片仮名の「はらい」の方向の違いを理解して書くことができる。

【知識及び技能】

○片仮名の「はらい」の方向の違いについて考えることができる。

【思考力・判断力・表現力等】

(2) 展開 (2/3)

時配	学習活動と内容	・指導支援 ○評価 *特別な配慮	資料
2 3	<p>【見出す】</p> <p>1 ウォーミングアップをする。 ・「しょしゃのたいそう」をする。</p> <p>2 本時のめあてを知る。 ・字形が整っていない文字を見て、直すところを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">  </div>	<p>・指導支援 ○評価 *特別な配慮</p> <p>・体全体を使って、楽しみながら基本点画の書き方を理解できるようにする。</p> <p>・「シャツ」の「はらい」を誤った書き方で板書し、課題を焦点化する。</p>	<p>資料</p> <p>パワーポイント</p>
5 7	<p>【自分で取り組む】</p> <p>3 「ソ」「ツ」「ン」「シ」を試書する。</p> <p>4 「はらい」の方向を確かめる。 ・「ソ」「ツ」は左下へ ・「ン」「シ」は右上へ</p>	<p>・指導支援 ○評価 *特別な配慮</p> <p>・書く文字の書き順を、空書きで確認してから試書するよう促す。</p> <p>・分解した文字の「点」に「はらい」を組み立てさせ、「ソ」「ツ」は左下へ、「ン」「シ」は右上へ、それぞれ払うことを確認する。</p> <p>・△の枠を当てはめて見せることで、外形の違いにも気付かせる。</p>	<p>資料</p> <p>ワークシート</p> <p>分解文字</p> <p>△ 枠</p>



・「シ」「ツ」の一、二画目の筆順を間違えていないか確認する。
 ○「はらい」の方向の違いについて考えている。【思考・判断・表現】

水書セット

15

5 練習する。
 ・水書用筆と鉛筆を交互に使って練習する。

・水書用筆を使用することで、「はらい」の書き方を視覚的・体感的に捉えられるようにする。
 ・運筆の示範を拡大して投影する。

5

【広げ深める】
 6 書き方を確かめ合う。
 ・「はらい」の書き方ができるようになったか見合う。

・隣の人と書いているところを見合い、よくできたところを伝え合うよう助言する。
 *言葉でうまく伝えられない場合は手で○をつくるなどのジェスチャーでもよいことを伝える。

はらいがすうっと書けたね。

上手に書けています。

形がきれいです。

ありがとう。



○片仮名の「はらい」の方向の違いを理解して書いている。【知識・技能】

5

【まとめあげる】
 7 まとめ書きをする。

・練習前と比べて変容があった児童を賞賛し、意欲化を図る。

3

8 「し」「つ」「ん」「し」が入っている片仮名の言葉を書く。

・本時で学習した文字が入っている言葉を見つけて書くことで、日常化を図る。

(3) 板書

(4) 資料

事後調査	正しく書けた
マ 二画目	30名 (1名増)
ア 二画目	27名 (11名増)
ワ 一画目	31名 (3名増)
ク 一画目	20名 (1名増)
ソ 「はらい」	26名 (1名増)
ツ 「はらい」	22名 (2名増)
ン 「はらい」	23名 (増減なし)
シ 「はらい」	25名 (2名増)

実践3 第2学年

1 単元名 かん字の学しゅう ②画の方こう

2 単元について

本単元は、学習指導要領「知識及び技能」(3)我が国の言語文化に関する事項 ウ(ア)「姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。」(イ)「点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。」(ウ)「点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を正しく書くこと。」を受けて設定した。

児童はこれまでに、1年生で学習した漢字の始筆・送筆・終筆の書き方や、片仮名の書き方について学習してきた。姿勢や鉛筆の持ち方は、文字を書くための基礎・基本であり、継続して指導している。

本単元では点画同士の関係を知り、「字形の整え方」について学習を行う。「画の方向」では、「はらい」や「おれ」「まがり」「そり」「点や画」に着目し、同じ点画でも方向の違いがあることを押さえ、字形を整えて書けるようにする。「はらい」では筆圧を軽くしていく感覚をつかむために、水書用筆を用いて練習を行う。水書用筆は扱いが簡単で、弾力性に富み、時間の経過とともに筆跡が消えるという特性をもっている。その特性を生かして点画の始筆から送筆、終筆までの一連の動作を繰り返し練習することができる。水書用筆を活用することは硬筆で適切に運筆する習慣の定着につながると考えられる。

3 児童の実態と考察(男子17名 女子16名 合計33名)

(1) 意識面

本学級の児童は、書写に対する意欲が高く「書写の勉強は好きですか。」「きれいな字を書けるようになりたいと思いますか。」という問いには、それぞれ33名中、32名が「はい」と答えた。書写の勉強が好きな理由として「字が上手になる」「字を書くのが楽しい」「水書ペンが好き」などが挙げられ、きれいな字については「ほめられたい」「上手に手紙を書きたい」「大人になってはずかしくないようにしたい」など前向きな意見が多いことがわかった。一方「書写で難しいと思うことはありませんか。」の問いには13名が「はい」と答え、鉛筆の正しい持ち方やなぞるときにはみ出してしまうこと、思い通りに書けないことなどを難しいと感じている児童もいる。着目すべき点画を確認し、目標を明確にすることで、「できた」と感じられるようにしたい。

(2) 技能面

調査項目	正しく書けた	誤りの例
人 一画目方向	24名(約72%)	中心から始まっていない
大 二画目方向	21名(約63%)	はじめからななめに進んでいる
月 一画目方向	25名(約75%)	はじめからななめに進んでいる
千 一画目方向	8名(約24%)	縦方向に進んでいる
人 一画目はらい	18名(約54%)	払っていない
大 二画目はらい	17名(約51%)	払っていない
月 一画目はらい	21名(約63%)	払っていない

千 一画目はらい	17名 (約51%)	払っていない
----------	------------	--------

「人」「大」「月」の画の方向は、正しく書けている児童が多いが、「千」は縦方向に書いている児童が多かった。横方向に払うことは難しいようだ。また、終筆において「はらい」で筆圧を弱めていくことができず、同じ筆圧のまま止めている児童が多いことがわかった。水書用筆を用いて筆圧の変化を体感させながら、運筆方法を習得できるようにしたい。

4 単元の目標

○漢字の画の方向に着目し、「字形の整え方」を理解して、字形を整えて書くことができる。

【知識及び技能】

○それぞれの点画について、違いを考えることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

○字形や書き方の似ている文字に気をつけて、正しく書こうとする意識をもっている。

【学びに向かう力、人間性等】

5 指導と評価の計画 4時間扱い (本時1/4)

時	主な学習活動	評価
1 (本時)	「左はらい」のある「人」「大」「月」「千」を書く。	「左はらい」の方向の違いを理解している。【知識・技能】 「左はらい」の方向に気をつけて字形を整えて書こうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
2	「おれ」「まがり」のある「自分」「星空」「えい画」「見学」を書く。	「おれ」「まがり」の方向の違いを理解している。【知識・技能】 「おれ」「まがり」に気をつけて字形を整えて書こうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
3	「そり」「点や画」のある「手紙」「思う」「雨音」「羽」を書く。	「そり」「点や画」の方向の違いを理解している。【知識・技能】 「そり」「点や画」に気をつけて字形を整えて書こうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
4	「画の方こう」で学習してきた文字を見合い、良さを伝え合う。	書写で使う言葉を使って、自分の書いた文字や友達の書いた文字の良さや改善点について考えている。【思考・判断・表現】

6 本時の指導

(1) 目標

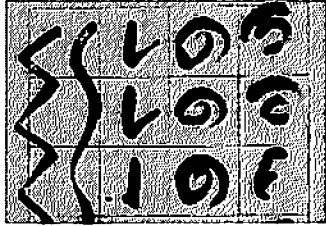
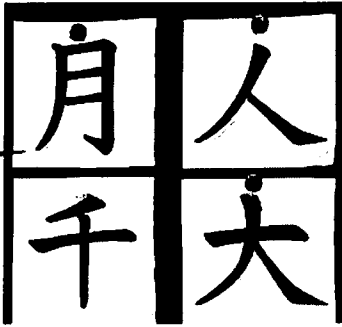
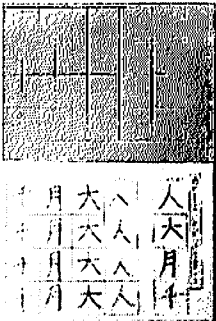
○「左はらい」の方向の違いを理解して書くことができる。

【知識・技能】

○「左はらい」の方向に気をつけて字形を整えて書こうとする。

【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 展開

時配	学習活動と内容	・指導支援 ○評価 *特別な配慮	資料
6	<p>【見出す】</p> <p>1 ウォーミングアップをする。 ・「しよしゃのたいそう」をする。 ・水書用筆で、様々な線を書く。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・体全体を使って基本点画を確認する。 ・「とめ」「はね」「はらい」「おれ」などの線を水書用筆で書くことで、筆記具の扱いに慣れるようにする。 ・姿勢、筆記具の持ち方に気をつけるように声をかける。 	<p>ワークシート 水書用筆 水書用紙</p>
2	<p>2 本時のめあてを知る。</p>		
<p>「左はらい」の方こうのちがいに気をつけて書こう。</p>			
5	<p>【自分で取り組む】</p> <p>3 試し書きをする。 教科書の文字を見ずに「人」「大」「月」「千」を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書き順を確認するため、空書きをしてから試し書きをするようにする。 	
6	<p>4 試書と教科書の文字を比べて話し合う。 左はらいの方向の違いに気づく。 教科書の文字を指でなぞって確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・左はらいに着目して、基準の文字と比べるように助言する。 	
<p>・「人」と「大」は似ているけど少しちがう。 ・「千」は横に進んでいる。</p>			
13	<p>5 練習する。 ・水書用筆を使った練習と鉛筆での練習を交互に行う。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・水書用筆と鉛筆を交互に使いながら練習することで、水書用筆で得た筆圧のかけ方を鉛筆でも再現できるようにする。 *水書用筆の扱いが難しい児童には水の量を調節する。水書用紙が乾くまでに時間がかかる場合は予備の用紙を使うようにする。 ○左はらいの方向に気をつけて書こうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 	

<p>5</p>	<p>【広げ深める】</p> <p>6 左はらいについて友達と確認し合う。 ペアで互いの字を見せ合い、左はらいの方向が正しくできているか確認し、伝え合う。</p>	<p>・よくできているところを見つけて伝えるようにする。</p>	
<p>5</p>	<p>7 まとめ書きする。 ワークシートにまとめ書きし、自己評価する。</p>	<p>○左はらいの方向の違いを理解して書いている。【知識・技能】</p>	
<p>3</p>	<p>8 関連する文字を見つける。</p>	<p>・これまで習った漢字から、左はらいのある漢字を見つけ、日常生活において役立つように意欲の向上を図る。</p>	


(3) 板書


赤花小手


犬合会火


左はらいのあるかん字

水書板


 すぐに左みじかい

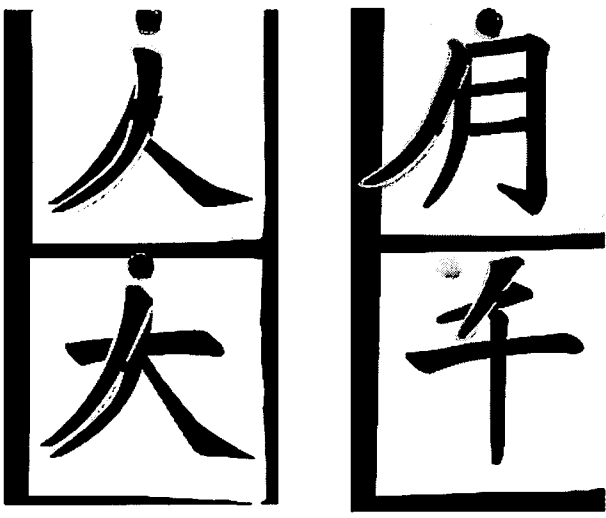

 とちゅうまでまっすぐ
 さいごにはらう


 少しまっすぐ


 ななめ左にはらう

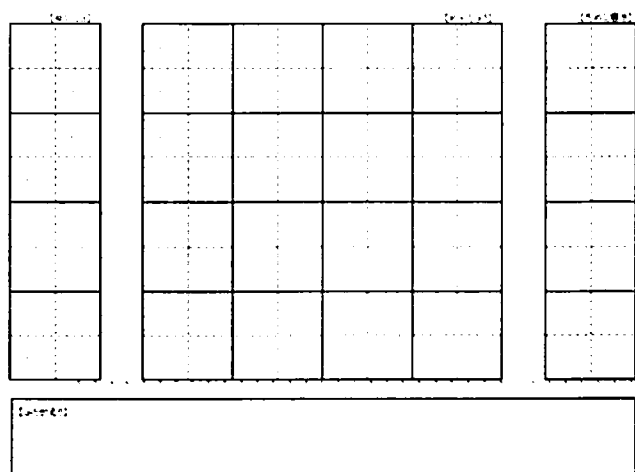
「左はらい」の方こうのちがいに気を付けて書こう。

(4) 資料



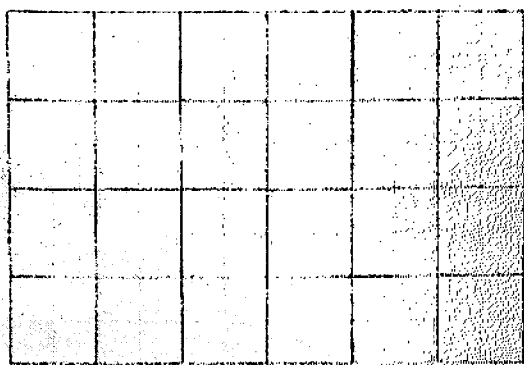
- ・画の方向や、それぞれの違いをわかりやすく理解できるように提示。
- ・左はらいの画は動かせるようにした。
画を入れ替えたり、角度を変えたりして違いを見つけた。

○ワークシート



- ・他の单元でも使えるようにした。
- ・ますの大きさは水書用紙と同じ。
- ・「試し書き」「練習」「消書」「振り返り」の欄を作る。

○水書用紙

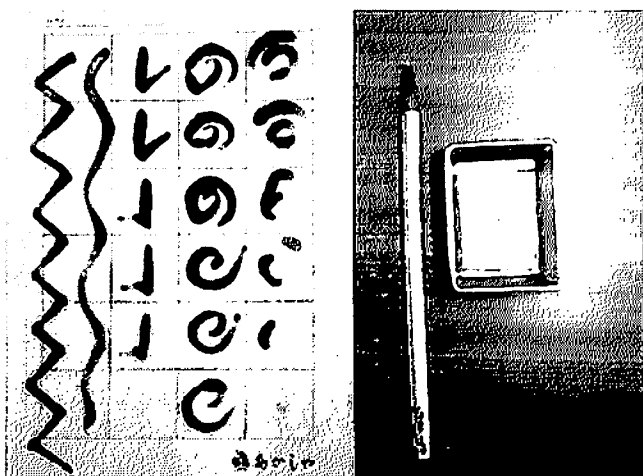


- ・ます目がついたものを用意する。
- ・無地の用紙にます目を印刷した。

(印刷機使用)

※ます目がない場合、字を大きく書きすぎる児童が多い。

○水書セット



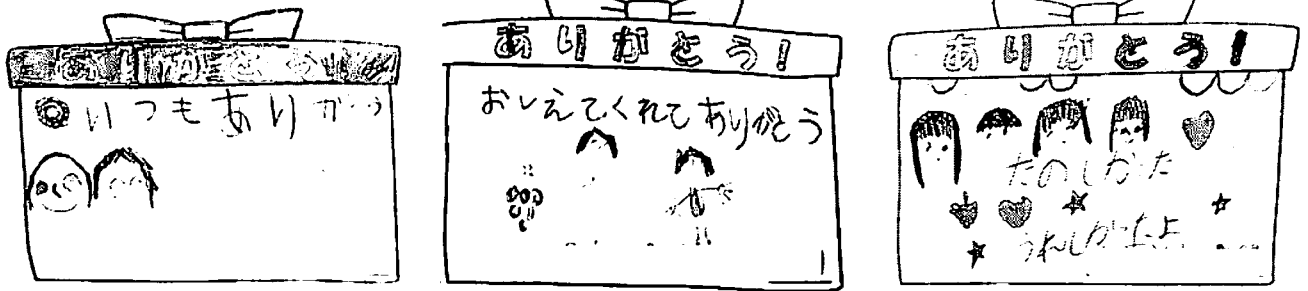
- ・水書用紙
- ・水書用筆
- ・小皿
- ・吸水クロス

適量の水分を含ませて使う。
水がこぼれず、扱いやすい。
穂先を整えることができる。

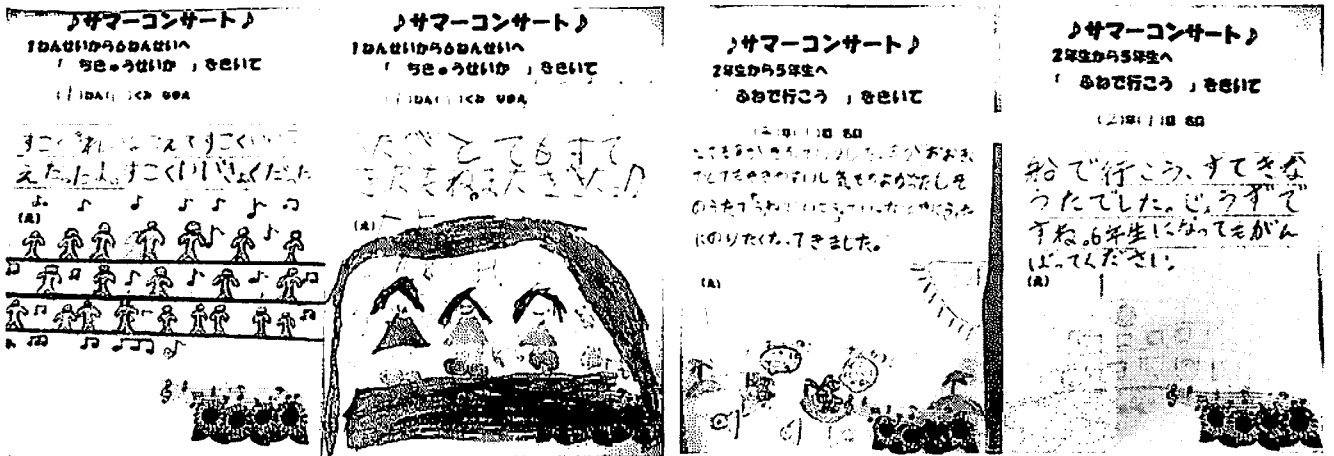
事後調査	正しく書けた
人 一画目方向	27名 (3名増)
大 二画目方向	27名 (6名増)
月 一画目方向	28名 (3名増)
千 一画目方向	18名 (10名増)
人 一画目はらい	19名 (1名増)
大 二画目はらい	19名 (2名増)
月 一画目はらい	18名 (3名減)
千 一画目はらい	20名 (3名増)

生活に生かす書写 (他教科や領域における実践例)

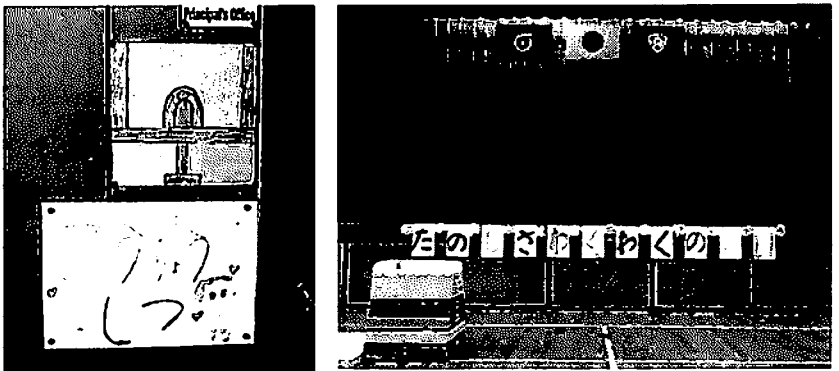
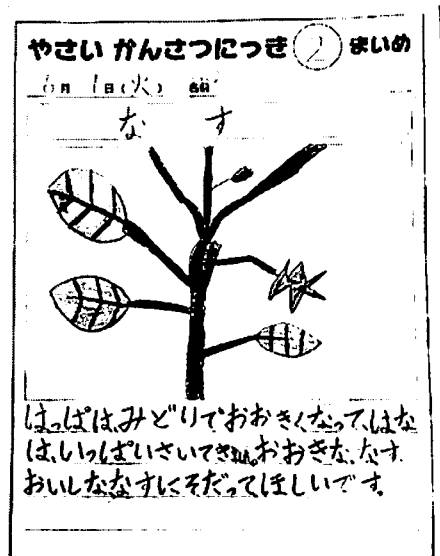
1年生 生活科お礼の手紙 (鉛筆)

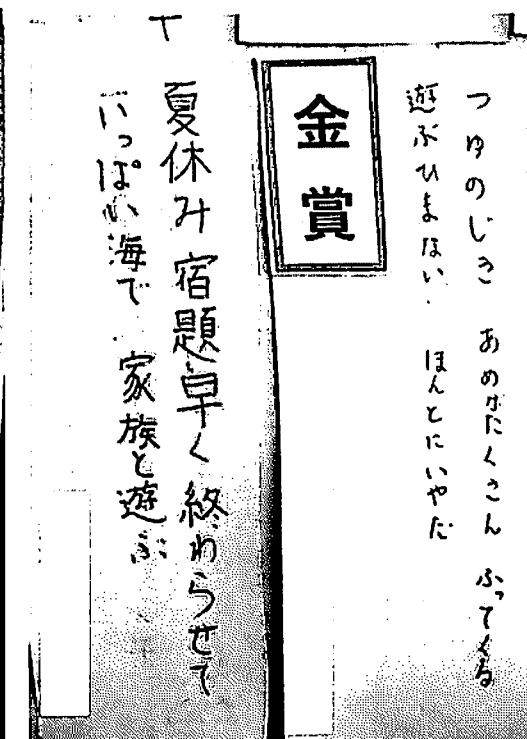
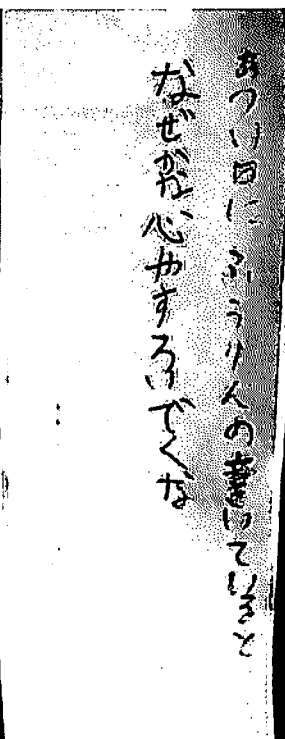
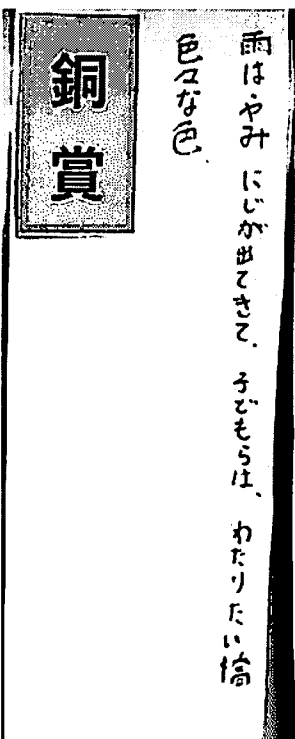
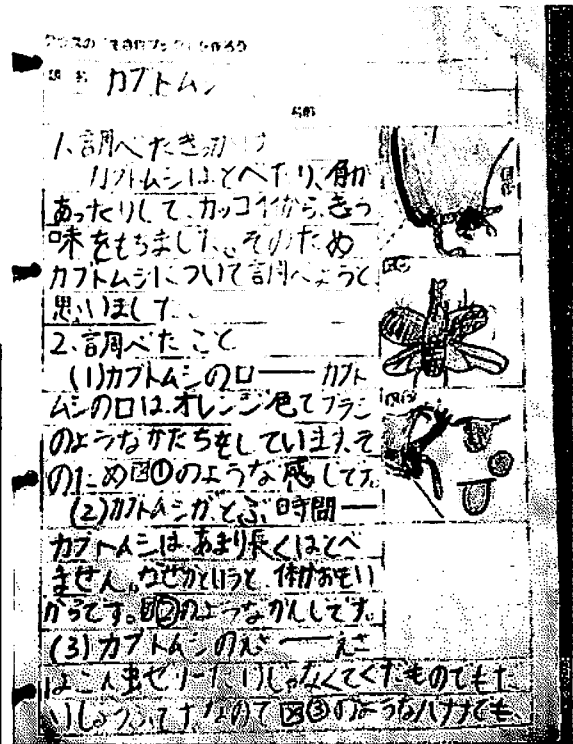
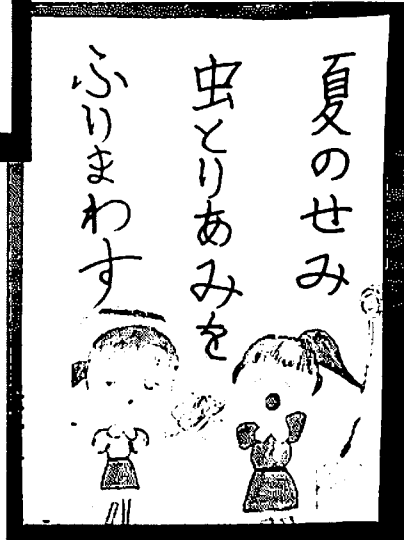
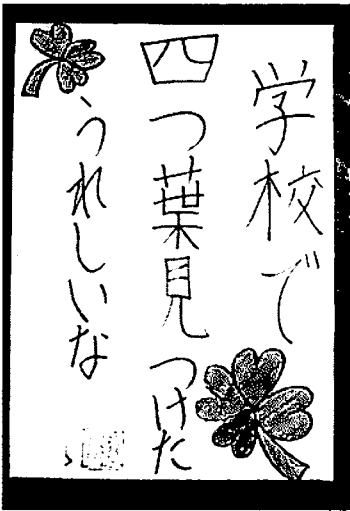


音楽科 鑑賞カード (鉛筆)

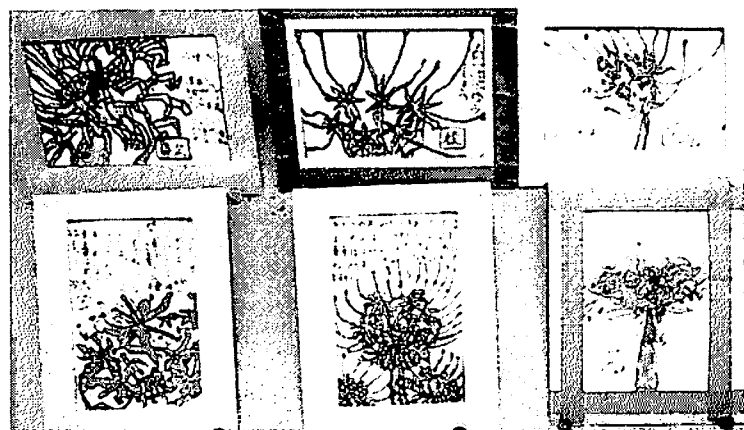
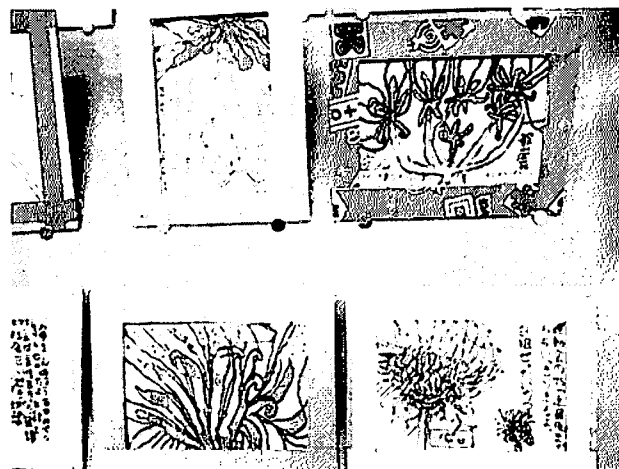


2年生 生活科 観察日記 (鉛筆) 教室の案内看板 (クレヨン)

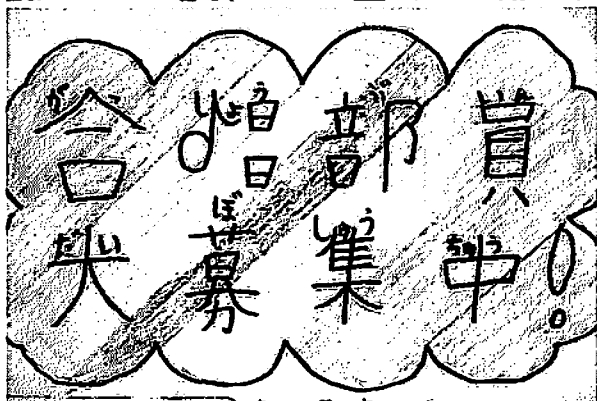
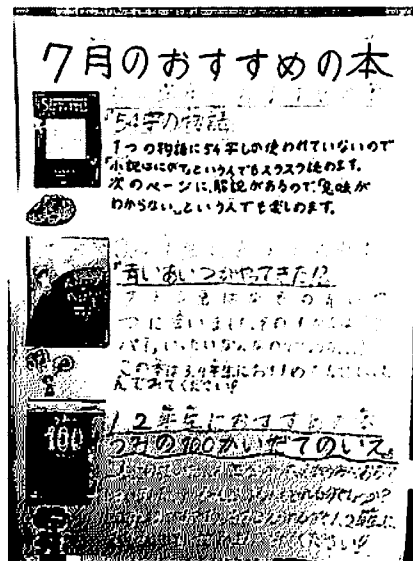
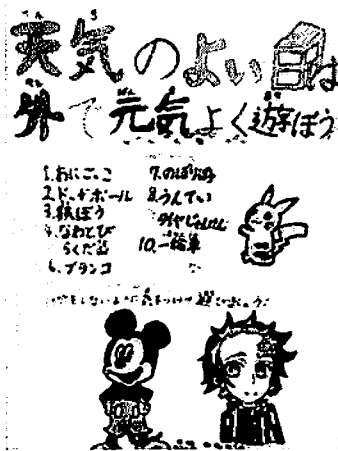
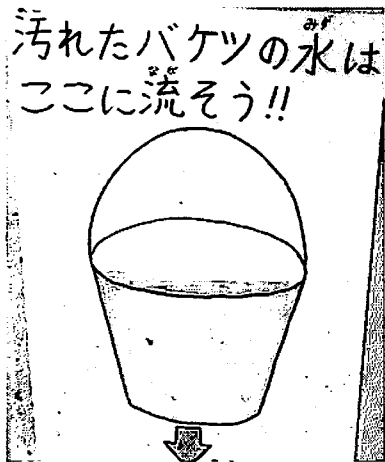




図画工作科 絵手紙 (小筆)



5・6年生 委員会活動, 部活動のポスター・掲示物づくり (マジックペン)



V 成果と課題

<仮説1> について

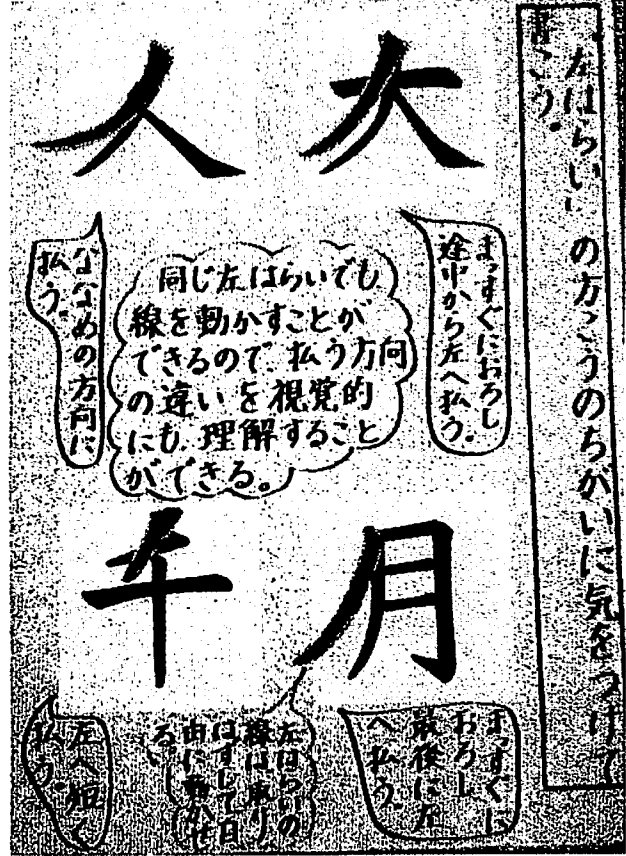
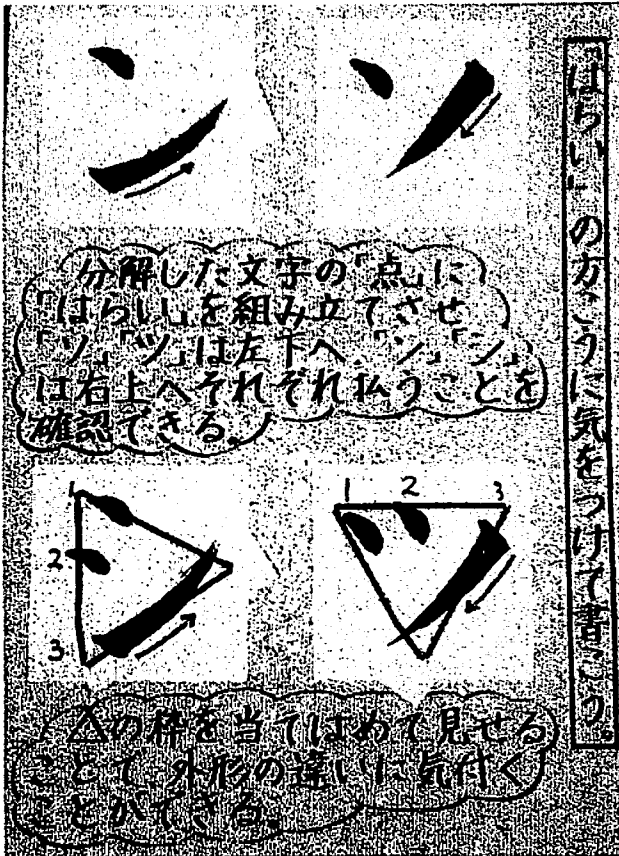
- 「しょしゃのたいそう」で書写の用語への理解が深まっている。本時のめあてが何かをスムーズに言語化することができ、試書をする段階から「どうすれば正しく書けるか」を考えて書いている児童が多い。
- 教材教具にしかけをつくと、考える視点が明確になり、主体的に課題解決に取り組もうとする意欲が高まった。
- 水書用筆の活用により、徐々に力を抜いてはらう方法が理解できるようになった児童が多い。「とん」「すー」「とん」や「しゅー」など、「しょしゃのたいそう」で用いられている運筆の合い言葉が定着し、運筆方法がイメージしやすくなっている。
- 相互評価において、書いた文字を見合うのではなく、書くところを見合うようにしたところ、書く側は一文字ずつ真剣に書き、見る側はよいところを見つけやすくなった。そのため、温かい言葉で伝え合いができた。
- 自己評価では、試し書きとまとめ書きを比べ、よくなったところを見つけることで次時への意欲につながった。
- ▲点画の書き方の違いは理解できても、思い通りに書くことにつながらない児童もいるため、継続的な指導が必要である。
- ▲水書用筆の水の分量の調節がうまくできないと、始筆があいまいになりやすい。水の調節がしやすい用具を使用したい。→(例)吸水クロスの活用 (p 19 参照)

<仮説2> について

- 学習した内容と同じ要素をもつ文字に関心を向けることができた。
- 相手意識、目的意識をもたせることによって、丁寧に読みやすく書こうとする意欲は高まった。
- 様々な筆記用具を場面に応じて効果的に使用することができた。低学年のうちから鉛筆だけでなく様々な筆記用具を活用していくことで、徐々に適した筆記用具を選択できるようになると考える。
- ▲本時の展開の中で、日常化につながる活動を取り入れたが、十分な時間をとることが難しい。また、学習したことを生かせない児童が多かった。そのため、他教科でも書写の学習を想起させる言葉掛けをしていくことが望ましい。

参考資料

① 掲示資料



② 水書セット用の吸水クロス